かさねの色目の花あそび　No.29

【色目】小栗色　＜表：秘色　裏：淡青＞

「こぐりいろ」と読む。この色目が見える古書の文章がひらがなのため、「濃栗色」とも解されるが、表の秘色からして未熟な栗、小栗の色だろうとのこと。裏の青が葉だとすれば、確かにまだ青い葉だ。

表の秘色は、「ひそく」と読む。焼き物の青磁の肌色のような浅い緑色に由来する色の名であり、釉薬に含まれる鉄分によって現れる独特の灰みを帯びたその色に、神秘的な美しさを見出してのネーミングである。

花材は、秘色の花が見当たらなかったので秘色チックに染めた水が担当（ヒマラヤの青いケシ、メコノプシスならそんな秘色の花もありそうだ）。淡青は、アンスリューム１輪。その後、モンステラやらルスカスやらの濃い目の緑が仲間入り。

かさねの色目の花あそび　No.30

【色目】葉菊　＜表：白　裏：紺青＞

白菊の花と葉の組み合わせらしい。菊の葉がこんな紺を帯びた青さかどうかは疑問だが、そこは王朝の美学。なんとなく高貴なムードが漂う。

花材は、秘色同様濃い目に染めたブルーの水を使って紺青を担当（改良や開発の著しい花菖蒲やトルコギキョウなどにこうした青の花もありそう）。白い花はホワイトスター（ふさふさした薄緑の葉っぱは全部取り去っている）。そして、白いガーベラ１輪をプラスしたものも。